

CHUOH TRY+ANGLE

知っ得通信

2023年8月22日発行 編集・発行：中央教育研究所(株) 〒730-0013 広島市中区八丁堀15-6 <https://www.chuoh-kyouiku.co.jp>



中土井鉄信の「地域一番の繁盛塾になるための最強法則」 vol.138 <子どもに求める「なっってほしい大人像」は？>

読者の皆さん、夏期講習お疲れ様です。暑い日々が続きますが、体調に留意され、素晴らしい夏期講習を行ってください。

今回は、ちょっとアンケートの時期が古いのですが、2022年10月に atama plus 株式会社が、小学生から高校生の子どもの持ち、その教育に関心がある保護者 1,200 名を対象に行った子どもに対する教育意識に関する調査を紹介します。

この調査の中に、「子どもに身につけてほしい力や理想の大人像」についてのものがありましたので、これを基にしてみます。

この調査で、保護者が子どもに求めるものは、「コミュニケーション力」「レジリエンス(困難を乗り越え回復する力)」「セルフスターター(自発的に行動できる人)」といった、社会に出て、大人としてしっかり活動できる力を保護者も求めているということです。当然と言えば当然です。

保護者が子どもに「なっってほしい大人像」について、回答結果が多い順にまとめると、

1. 「他人とのコミュニケーションをうまく取れる」(36%)
2. 「失敗しても立ち直れる」(30%)
3. 「自分の意見を言える」(24%)
4. 「主体的に行動する」(24%)

その他にも、「ルールや約束を守れる」「責任感がある」「自分で決められる」「協調性がある」などの項目が高いのですが、保護者としては、人間関係能力を基本に、自分で自分の人生を生きてほしいと思っているようです。そして、多分、文科省の学習指導要領の影響もあって、「主体的」というワードが出てきたのではないかと思います。それにしても、「自分の意見を言える」、「主体的に行動する」のが、上位に上がるのは、昨今の風潮でもあり、保護者自身の反省もあるのではないのでしょうか。

次に、保護者が子どもに「なっってほしい性格」のランキングを見ておきます。やはり、ここでも人間関係をうまく構築する性格を望んでいます。

1. ルールや約束を守れる
2. 他者とのコミュニケーションをうまく取れる
3. 協調性がある
4. 様々なことに興味を持つ

ここで、注目すべきポイントは、4番目の「様々なことに興味を持つ」です。実は、この興味を持つという性格が、人間関係、コミュニケーションにとって非常に重要なのです。保護者は、自分の今までの体験から、ここが重要なことなのだと思っているのだと思います。私たち教育にかかわる人間にとっても、この「様々なことに興味を持つ」ことが重要なことなのです。ここはしっかり押さえたいところです。

今回、この調査を取り上げて紹介しましたが、何が一番、言いたいのかと言えば、コミュニケーションがすべてにわたって重要なことなのだという事です。

教育という仕事は、コミュニケーションで成り立っています。そして、子どもたちとコミュニケーションをとることで、子どもたちのやる気を高め、そして、子どもたちにコミュニケーションの仕方を教えるのです。人間関係もコミュニケーションが成立して初めて構築されていきます。

つまり、すべての元にコミュニケーションがあるということです。このことを意識して、日々の指導を行ってください。

【編集後記】
 塾長応援マガジン「塾を育てる専門誌」
 デジタル版の登録はお済みですか？

本メルマガ著者・中土井が代表理事を務める、一般社団法人 日本教育コンサルタント協会(JEC)が刊行する学習塾経営者のための情報誌『塾長応援マガジン 塾を育てる専門誌』では年4回、JEC認定の教育コンサルタント陣が、集客や人材育成など、各自の専門分野について、その時期に注力すべきポイントや、最新の業界の動きやデータについて新たな視点で提言し、全国1万塾の塾経営者の先生方から支持を頂いています。
 (3月・9月はメール配信、6月・12月は冊子郵送です)

次回9月号は、デジタル版のメール配信となります。
 現在、JEC認定コンサルタント陣がそれぞれの視点から塾経営の成功ポイントを執筆中です。どうぞご期待ください！

★読者登録(無料)やバックナンバー申し込みはこちら★
<https://kyoiku-saisei.com/magazine/#form>
 ※紙冊子版を既にご登録の方は、デジタル版のみ追加登録されます。
 二重にはなりませんのでご安心ください。

数字でみる学習塾経営・業界のトレンド vol.102

文部科学省が7月31日、この4月に実施した「全国学力・学習状況調査」の結果を発表しています。

われわれに関係の深い通塾率は以下の通りです(%)。[「学習塾の先生や家庭教師の先生に教わっていますか(インターネットを通じて教わっている場合も含む)』との問いに対し、「学校の勉強より進んだ内容や、難しい内容を教わっている」「学校の勉強でよく分からなかった内容を教わっている」「上記の両方の内容を教わっている」「上記の内容のどちらとも言えない」「その他」と回答した児童・生徒の割合の合計]

| 都道府県(公立) | 小6生 | 中3生 | 都道府県(公立) | 小6生 | 中3生 |
|----------|------|------|----------|------|------|
| 鳥取県 | 34.4 | 50.8 | 島根県 | 29.9 | 40.7 |
| 岡山県 | 43.9 | 58.5 | 広島県 | 45.7 | 56.6 |
| 山口県 | 40.4 | 57.4 | 徳島県 | 48.5 | 61.4 |
| 香川県 | 42.5 | 61.4 | 愛媛県 | 43.5 | 54.1 |
| 高知県 | 42.0 | 41.7 | 福岡県 | 38.6 | 54.6 |
| 佐賀県 | 37.4 | 45.0 | 長崎県 | 35.2 | 47.3 |
| 熊本県 | 34.4 | 49.9 | 大分県 | 37.3 | 47.1 |
| 宮崎県 | 33.1 | 36.5 | 鹿児島県 | 31.2 | 42.9 |
| 沖縄県 | 39.2 | 51.1 | | | |

※回答した児童・生徒の割合より独自に算出。

全国平均は小6生が46.0%、中3生が60.0%。設置者別では小6生の場合、国立が最も高く、以下私立、公立の順、中3生は国立、公立、私立の順(国立、公立の調査参加校はほぼ100%、私立の参加校は小学校が52.0%、中学校が35.7%)。地域別では小中ともに大都市が一番高く、以下中核市、その他の市と、人口規模の大小と通塾率の高低とが比例しています。「へき地」については具体的な自治体名(学校名?)が公表されておりませんが、極めて小規模な過疎地域と考えていただければ結構でしょう。

都道府県別の通塾率上位5都府県と下位5県を挙げておきます。

エリア別通塾率 (全国学力・学習状況調査より)

| | 小6生 | 中3生 |
|--------------|------|------|
| 全国(国立・公立・私立) | 46.0 | 60.0 |
| 全国(国立) | 78.7 | 81.1 |
| 全国(私立) | 77.1 | 47.2 |
| 全国(公立) | 45.5 | 60.0 |
| 大都市(公立) | 53.7 | 68.7 |
| 中核市(公立) | 45.6 | 61.3 |
| その他の市(公立) | 41.8 | 56.8 |
| 町村(公立) | 35.8 | 48.8 |
| へき地(公立) | 26.6 | 33.5 |

都道府県別通塾率 (全国学力・学習状況調査より)

| 都道府県(公立) | 小6生 | 中3生 | 都道府県(公立) | 小6生 | 中3生 |
|----------|------|------|----------|------|------|
| 北海道 | 35.2 | 49.6 | 青森県 | 27.3 | 32.4 |
| 岩手県 | 26.2 | 28.8 | 宮城県 | 36.8 | 53.8 |
| 秋田県 | 23.8 | 34.9 | 山形県 | 29.2 | 34.4 |
| 福島県 | 30.4 | 43.7 | 茨城県 | 41.3 | 56.1 |
| 栃木県 | 39.4 | 57.0 | 群馬県 | 43.2 | 57.6 |
| 埼玉県 | 47.3 | 66.7 | 千葉県 | 50.6 | 67.8 |
| 東京都 | 58.8 | 70.7 | 神奈川県 | 57.0 | 74.4 |
| 新潟県 | 33.6 | 49.2 | 富山県 | 35.8 | 49.4 |
| 石川県 | 34.9 | 46.4 | 福井県 | 37.0 | 48.9 |
| 山梨県 | 40.6 | 53.5 | 長野県 | 36.6 | 51.3 |
| 岐阜県 | 44.9 | 65.0 | 静岡県 | 45.0 | 64.4 |
| 愛知県 | 49.0 | 65.4 | 三重県 | 46.9 | 65.3 |
| 滋賀県 | 46.5 | 61.7 | 京都府 | 49.0 | 62.7 |
| 大阪府 | 50.9 | 68.0 | 兵庫県 | 52.4 | 69.4 |
| 奈良県 | 54.3 | 71.8 | 和歌山県 | 49.0 | 66.0 |

都道府県別の通塾率 (上位5都府県・下位5県)

| 小6生 | | 中3生 | |
|-----|------|-----|------|
| 1位 | 東京都 | 1位 | 神奈川県 |
| 2位 | 神奈川県 | 2位 | 奈良県 |
| 3位 | 奈良県 | 3位 | 東京都 |
| 4位 | 兵庫県 | 4位 | 兵庫県 |
| 5位 | 大阪府 | 5位 | 大阪府 |
| ⋮ | | ⋮ | |
| 43位 | 島根県 | 43位 | 宮崎県 |
| 44位 | 山形県 | 44位 | 秋田県 |
| 45位 | 青森県 | 45位 | 山形県 |
| 46位 | 岩手県 | 46位 | 青森県 |
| 47位 | 秋田県 | 47位 | 岩手県 |

数字でみる学習塾経営・業界のトレンド vol.102-2

小6生の上位下位、中3生の上位下位、ともに同じような都道府県名が並んでいますね。上位はすべて大都市圏、下位では東北各県が目立ちます。

この調査ではしばしば正答率の地域格差が問題にされますが、正答率の都道府県別順位と通塾率順位とを眺めてみますと、ちょっと不思議なことがわかります。

正答率の都道府県別順位（通塾率の順位）

| 小6生 | | 中3生 | |
|-----|----------|-----|----------|
| 1位 | 石川県(36位) | 1位 | 東京都(3位) |
| 2位 | 福井県(30位) | 1位 | 石川県(37位) |
| 2位 | 秋田県(47位) | 3位 | 福井県(34位) |
| 4位 | 東京都(1位) | 4位 | 愛知県(9位) |
| 5位 | 京都府(7位) | 5位 | 神奈川県(1位) |
| ⋮ | | 5位 | 岐阜県(11位) |
| ⋮ | | ⋮ | |
| 42位 | 愛知県(7位) | 42位 | 高知県(41位) |
| 42位 | 宮城県(31位) | 42位 | 福島県(39位) |
| 42位 | 長崎県(34位) | 44位 | 佐賀県(38位) |
| 46位 | 岐阜県(16位) | 44位 | 宮崎県(43位) |
| 46位 | 島根県(43位) | 46位 | 岩手県(47位) |
| 47位 | 沖縄県(26位) | 47位 | 沖縄県(28位) |

左側の順位は都道府県別正答率(小6生は国算の、中3生は国算英の正答率の合計)の上位5位と下位5位を並べたもの、右側のカッコ内は通塾率の順位(高い順)です。

ご覧のように、正答率順位と通塾率順位との間にはほとんど関係性が見られません。中3生の正答率下位5県は通塾率順位もかなり低いので、ここだけは関係がないこともないとは言えそうですが、そこだけです。

これ、どういうことなのでしょう。塾は学力の向上にさせて役にたっていないということなのでしょうか。

ちょっと悔しいですね。

そこで、通塾率と少しでも関係の深いデータはないか

と探してみましたら、まああなのがありました！

22年春の四年制大学への進学率

| 進学率順位 | 都道府県(小6生通塾率順位、中3生通塾率順位) |
|-------|-------------------------|
| 1位 | 東京都(1位、3位) |
| 2位 | 京都府(7位、13位) |
| 3位 | 神奈川県(2位、1位) |
| 4位 | 兵庫県(4位、4位) |
| 5位 | 大阪府(5位、5位) |
| ⋮ | |
| 43位 | 鳥取県(37位、29位) |
| 44位 | 岩手県(46位、47位) |
| 45位 | 宮崎県(40位、43位) |
| 46位 | 山口県(24位、19位) |
| 47位 | 鹿児島県(41位、40位) |

22年春の四年制大学への現役進学率です。左側の順位は都道府県別の進学率順位、右のカッコ内は左側が小6生、右側が中3生の通塾率順位です。ご覧のように進学率の順位と通塾率の順位とがかなり重なっています。

通塾率の高低は「学力の高低」とはあまり関係がないけれど、「大学進学率」とはかなり関係している。そうみてよさそうですね。

ただ、残念ながら、これもちょっと無理やり探し出した、コジツケに近いデータです。

塾が地域に貢献できることをもっと見える形で示さなければ、塾は地域から見放されてしまうかもしれません。真剣に考えなければならぬ時期に差し掛かっているのかもしれないね。

PS・コンサルティング・システム
小林 弘典